

高校生二人が就業体験

大好きな秋田に就職したい

高校生が地元企業で職場体験をする高校生インターンシップ。今年は、市内の高校2年生202人が参加し、厳しい就職戦線に臨むための心構えを学んでいます。

社会への第一歩、 目的意識が大切

高校生インターンシップは、学生の就業意欲や目的意識を高めるだけでなく、優れた人材の発掘や、企業の要求と学生の希望が合わないといった雇用のミスマッチを解消します。

今年は、秋田中央・秋田商業・経法大附属・和洋女子高校、栗田養護学校高等部の学生二人が、サービス業、福祉系などの職種を体験。十月から十一月にかけて、地元企業八十一社に受け入れていただいています。

誰よりも就職の厳しさを実感している学生たち。本格的な就職活動を控え、社会勉強の第一歩として、また、自分に適した職業を見つけるきっかけとして、真剣なまなざしでインターンシップに取り組んでいます。



お客様との接し方を学んだ畠山さん(左)と深井さん



ていねいに、手際よく

企業の社会貢献活動に関心

畠山典子さん
深井香納子さん
(和洋女子高校)

資生堂販売 秋田支社で職場体験をしたのは、深井さんと畠山さん。二日間にわたり、商品を販売する接客の見学や、販売店まわりなどを行いました。

研修二日目には、会社が月に一度老人保健施設で行っている社会貢献活動に同行。誕生日を迎えるお年寄りにメークアップのサービスをしました。化粧品会社に就職希望の畠山さんは「企業がボランティア活動をするのがすごいと思います。お年寄りが化粧をして喜ぶ姿を見ると、こっちまでうれしくなりました」とニッコリ。

「顔をのぞき込むのが恥ずかしかったけど、化粧しているうちにお年寄りが笑顔になってくるのがわかるんです」と深井さん。「こういう仕事もいいかな」と就職希望の選択肢が広がった様子でした。